

2019年4月1日

株式会社 JERA

代表取締役社長 小野田 聡 様

横須賀火力発電所の建設中止を求める要請

石炭火力を考える東京湾の会 共同代表

鈴木陸郎、富樫孝夫、小西由希子、永野勇

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

この度は、株式会社 JERA の新社長へのご就任、誠におめでとうございます。

私ども「石炭火力を考える東京湾の会」は、東京湾岸に建設が予定されていた市原、千葉、袖ヶ浦、横須賀の住民団体と環境 NGO のネットワーク組織として 2017 年に発足し、石炭火力発電所による様々な環境汚染問題を訴え、各計画の事業者や行政などに中止を求めて活動してまいりました。ご存知のとおり、市原、千葉、袖ヶ浦の計画が事業者の英断によって中止となり、将来の CO2 排出や大気汚染物質などによる環境破壊を未然に防ぐことができたことを大変喜ばしく感じると同時に、横須賀に石炭火力の計画が残り、今も御社が計画を推進していることを大変憂慮しております。

現在、気候変動は極めて厳しい状況に直面しています。現在の水準で世界の温室効果ガスの排出が続けば、早ければ 2030 年に地球の気温上昇が 1.5°C に到達すると言われております。豪雨や巨大ハリケーンや台風等ですでに多くの命が奪われていますが、今後これらがさらに深刻化するのです。昨年、スウェーデンの少女グレタ・トゥーンベリさんが行った学校ストライキとデモ活動は世界中の若者たちが共感し、「Fridays For Future」の活動として日本でもその輪が広がっています。横須賀で石炭火力発電所が建設され、2023 年～24 年に稼動し、大量の CO2 を排出することは、こうした子どもたちの未来を奪うことにほかなりません。

御社が 2 月に掲げた新体制でのミッションは、“世界のエネルギー問題に最先端のソリューションを提供する”ことでした。また 2025 年に向けたビジョンには、“クリーン・エネルギー経済へと導く LNG と再生可能エネルギーにおけるグローバルリーダー”と示されています。どんなに「高効率」をうたったところで、横須賀火力発電所は、石炭を燃料とする限り、こうした御社のミッションやビジョンにも完全に逆行するものであり、世界の中で日本の価値を下げることになるでしょう。

クリーン・エネルギー経済を目指すのであれば、「黒い電気」とは手を切って、再生可能エネルギーへといち早く舵をきり、気候変動対策を訴える子どもたちにも胸を張って向き合えるような企業になっていただきたいと願います。

新社長のご就任にあたりまして、私たちはあらためて石炭火力発電所の建設中止の決断を求めます。

敬具